

やすらぎ短信

平成30年
3月号

春分の日とお彼岸



春分の日は、「自然をたたえ、生物をいつくしむ」日として、国民の祝日に定められています。春分の日と秋分の日、昼夜の長さがほぼ等しくなる日で、中日（ちゅうにち）といえます。また、この日の前後三日間、計七日間を「彼岸（ひがん）」といいます。仏教では、ご先祖さまのいる世界「極楽浄土」を「彼岸」といい西に位置するとされています。また、私たちの住んでいる欲や煩惱にまみれた世界を「此岸（しがん）」といい、東に位置するとされています。春分の日と秋分の日、太陽が真東から昇り、真西に沈むので彼岸と此岸が通じやすく

なると考えられ、この時期に先祖供養をするようになりました。

また、この時期は、農作業の種まきの時期でもあり、土地を守護してこらえた先祖に感謝の祈りを捧げてきたのも日本古来の信仰です。宮中では、春分の日と秋分の日には皇霊祭が行われ、天皇が宮中の皇霊殿で歴代天皇らの御霊をおまつりする儀式が行われます。

古くから日本人がご先祖様への感謝の祈りを大切にしてき心を子や孫へしっかりと伝えていきましょう。

社日祭

社日とは、一年に春と秋の二回あり、春分の日、秋分の日それぞれ最も近い「戊（つちのえ）」の日をさします。

戊」という文字には

王」という意味があり、この日に行われている社日祭では、土地の神様・農耕の神様



をおまつりします。春の社日祭は、種まきの時期にあたることから、作物の育成を祈り、秋の社日祭は、収穫の時期にあることから収穫の感謝と作業の安全を祈ります。浦幌町内の社日碑は、浦幌神社の境内に二基（元帯富・千歳の社日碑）、常室・万年・稲穂・養老の地区にもそれぞれおまつりされております。

車祓いのご案内

お車のご購入に際し、お祓いを受けられ、新たに交通安全の志を高めましょう。新車、中古車を問わずご予約にてお祓いし、交通安全をご祈願致します。大型・特殊車両のお祓いは、ご希望であれば、神主が出張致します。



厄祓いのご案内

厄祓いをお済みでない方は、ご予約にてご奉仕しております。お早目に受けられることをお勧めしております。

宮司の一筆

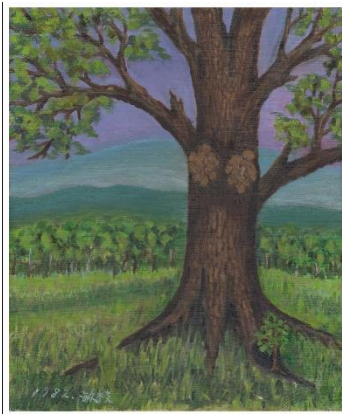
「ご祈禱（きとう）について」

神社にお仕えする神主は、日々ご祈禱のご奉仕をしている。ご祈禱とは、神社のご社殿に上がり、お祓いを受け、神主が神様と参拝者の仲を取り持ち、大和ことばで書かれた祝詞（のりと）を奏上（そうじょう）し、神様に感謝を申し上げ、様々な願いごとを祈念するものである。人生の中で悪いことが続いたり、運に恵まれないことは多々ある。そんな時は神社へ足を運び、日常生活の中で、知らず知らずのうちに心や身についた罪（つみ）・穢（けが）れをお祓いし、軌道修正をおこなってきたのが日本人である。我を出さず、神様に感謝をし、神様のすがすがしい「氣」を頂くことで自分の「氣」も高めることができる。「氣が病む」と書いて病氣という言葉があるように、陰気な心で暮らすと幸運どころか、病気を運んできてしまうものである。ご祈禱を受けることで、心と身体のバランスを保ちながら、様々な困難を乗り越えられる自力を養いましょう。

乳神神社のお話 その一

▼乳神様の信仰のはじまりについて

浦幌町に伝わる乳神様は、母乳授け・子宝・安産・病氣平癒の神様として信仰されており、この乳神様とは、おっぱいの形をしたコブをもつナラの大木で、大正時代の中頃、浦幌町の瀬多来で発見されました。伝承によると、孫が生まれたばかりの老婆が、この大木を見つけて、孫のために「この子の母親に母乳を授けて下さい。」と一心に祈願したところ、母乳が授かったというのが乳神信仰のはじまりです。その噂がたちまち広まり、この大木を拝みにたくさんの方が訪れるようになり、乳神様と信仰されるようになりました。右の絵は、昭和五十七年、乳神様の
大木の近くにお住まいであった菅原敏枝様が奉納した油絵です。



節分祭を齋行

去る二月三日に節分祭を齋行致しました。節分祭では厄年の皆様にご参列頂き、無病息災を祈願し、炒った大豆で「福は内」「鬼は外」の掛け声で豆をまき、厄落しを致しました。厄年転じて良い年となりますようお祈り申し上げます。



浦幌神社行事予定

- 三月一日 月次祭
- 三月十五日 月次祭
- 三月下旬 春季社日祭

発行 浦幌神社社務所

北海道十勝郡浦幌町字東山町十八番地の一

電話 〇一五・五七六・二四四八